

入間市 校務 DX 計画

1 これまでの取組

入間市では令和元年度より、現行の校務支援システムを導入し教職員の働き方改革を推進し、令和2年度にGIGAスクール構想による1人1台端末が導入された際、学習支援ソフトやデジタルドリル教材、学習eポータルを導入し、ICTを活用した子ども達が学ぶ場の構築を進めてきた。

また、保護者連絡システム、市全体の情報を子ども達に共有するアプリも導入し、様々な場面でデジタル化を図っている。

教職員間においては校務支援システムのグループウェア機能等を活用し、伝達事項、各種資料及び教材の共有・作成を行っている。また、オンラインでの授業や研修等も積極的に実施し、教職員が一堂に会さずとも研修を受講できる環境を整備した。

一方で、学校現場においてペーパーレス化が進まない点があることも事実であり、業務の円滑化・効率化の観点から更なるデジタル化を進めていく必要がある。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、今後の具体的な取組みを次のとおり進めていく。

2 校務支援システムのクラウド化及びネットワーク環境の構築

① 次世代校務DXを踏まえた教育の高度化を目指すため、令和8年1月よりフルクラウド型の校務支援システムを導入し、学習支援ソフトやドリル教材ソフト、学習eポータルと連携することで教育データの可視化・利活用を進め、教職員の働き方改革にも寄与するシステムを導入する。

② ロケーションフリー化

令和8年1月に予定している校務支援システムの更改に合わせ、教職員の働き方改革に寄与し、場所を選ばず校務支援システムにアクセスすることができるロケーションフリーなネットワーク環境を構築する。

③ 校務支援システムのクラウド化にあたり、十分なセキュリティを担保するため、ゼロトラストに基づくセキュリティ対策を導入する。

3 ペーパーレス化

現在、校長会議及び教頭会議を始めとする各会議において、資料を事前送付し、ペーパーレスでの会議を実施している。今後も校務支援システムのグループウェア機能や、保護者連絡システム等の利活用を更に促進し、ペーパーレス化を推進していく。

4 FAX及び押印の見直し

FAXについては、訃報連絡や事故報告等、緊急性が高い場合において活用している。今後も校務支援システムのグループウェア機能の活用等を促進し、より用途を限定した活用となるよう見直しを図っていく。

押印についても、市全体の押印見直し計画に基づいて継続的に見直しを行っていく。